

令和元年度事業報告

(期間:平成31年4月1日～令和2年3月31日)

事業概況

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するために、健全な食生活と予防医学に重点をおいた研究、さらに自然との共生を基本に、こころの健康を目指した研究を振興し、もって国民の健康増進と生活の質の向上に寄与する。

公益目的事業として

公1) ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための**研究調査事業**

公2) ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する**助成事業**を実施した。

(事業の内容)

定款の第4条における1、2、3についてはいずれも研究調査事業の具体的内容であり、事業としては1つと考えているため、公1にまとめている。

令和元年度(2019年度)の活動実績の概要は以下の通り。

1. ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究調査事業(公1)

(1)「ひと・健康・未来」の研究調査事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するために、文科と理科の壁を取り払い知のフロンティアとして実施している。この事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与することを目的としており、当財団役員が中心的な役割を果たし、その結果を公表している。

(1)－①研究会の推進(未来研究会の開催)

財団役員を含む科学者と外部の知の交流として、当財団役員の企画により実施している。令和元年度は第39回から43回まで、年間5回開催した。日程、講師、テーマは以下の通り。尚、第44回は、新型コロナウイルスの感染予防のため、次年度に開催を延期した。

●第39回 未来研究会

日 程:2019年4月12日(金)

講 師:澁谷 智子(成蹊大学文学部現代社会学部 准教授)

テーマ:「ヤングケアラーへの支援とケアを受ける親への配慮」

未成年の子どもたちが、実際にどのようなケアを担い、ケアをすることをどう感じているのか。そうした子どもやその家族への支援にあたって、考えるべき点は何かについて解説。

●第40回 未来研究会

日 程:2019年7月12日(金)

講 師:末原 達郎(龍谷大学農学部 教授)

テーマ:「食と農を結ぶ-新しい農学の創設-」

私立大学としては、35年ぶりに農学部を創設した龍谷大学の「食と農を結ぶ」新しい農学を実現する農学部の創設について、体験に基づいて解説。

●第41回 未来研究会

日 程:2019年9月20日(金)

講 師:佐藤 健司(京都大学大学院農学研究科 教授)

テーマ:「経口摂取したペプチドの機能とメカニズム」

ペプチドとは何か、コラーゲンペプチドの優位性に関して、経口摂取後、末梢血中にペプチドとして存在することを確認し、それによる創傷治癒促進作用について解説。

●第42回 未来研究会

日 程:2019年11月8日(金)

講 師:松平 浩(東京大学医学部附属病院 特任教授)

テーマ:「確かな腰痛マネジメント手法と健康長寿に向けた施策」

医療の高度化が進む中、最も有訴率が高く、労働生産性や高齢者の生活に悪影響を与える腰痛への最新マネジメント手法と、医学的知見に基づく健康長寿へ向けて独自の健康体操の体験を織り交ぜて解説。

●第43回 未来研究会

日 程:2019年12月2日(月)

講 師:本田 学(国立精神・神経医療研究センター神経研究所 部長)

テーマ:「脳情報から精神・神経疾患に迫る『情報医学』の可能性」

人間の可聴域上限を超える超高周波成分を豊富に含む音が、もたらす効果を応用した情報環境医療の開発のための基礎研究と臨床研究について、超高周波を実際に聞きながら解説。

●第44回 未来研究会

日 程:2020年2月28日(金)

講 師:中沢 孝(宇宙航空研究開発機構 広報部 特任担当役)

テーマ:「宇宙食の歴史と現状、そして災害時の食への応用について」

※新型コロナウイルスの感染防止のため、次年度に開催延期

(1)－②市民公開講座の開催

研究の成果をまとめ、市民公開講座「ひと・健康・未来シンポジウム」を開催し、公衆への啓蒙活動としている。開催については当財団役員を含む専門家が関与し、企画から運営にあたっている。参加は自由であり、参加費は無料。令和元年度は2回開催した。状況は以下の通り。尚、令和2年2月22日開催予定の市民公開講座は、新型コロナウイルスの感染予防のため、次年度に開催を延期した。

●『ひと・健康・未来シンポジウム2019名古屋』

開催日:2019年9月28日(土)

会 場:電気文化会館

テーマ:『食』を考える ―今の食卓に大切な栄養学―

後 援:NPO 法人愛知県食育協会、愛知県、名古屋市、中日新聞

参加:210名

健康長寿を阻害する最大の要因である生活習慣病を予防するために、何を食べるのがよいのか、いつ食べるのがよいのか、どう食べるのがよいのかを考えました。

●『ひと・健康・未来シンポジウム2019熊本』

開催日:2019年12月8日(日)

会場:熊本城ホール

テーマ:『病気をしない暮らし』への道しるべ

後援:熊本県、熊本市、熊本日日新聞社

参加:207名

先端医療と漢方、養生訓と健康、西洋医療と予防医学について、3つの講演を手掛かりに、超高齢社会を生きる日本人の健康について考えました。

●『ひと・健康・未来シンポジウム2020京都』

開催日:2020年2月22日(土)

会場:芝蘭会館 稲盛ホール

テーマ:「身体を通して心を感じる -AI社会で幸せを感じる生き方-」

後援:京都府、京都市、京都市教育委員会、京都市社会福祉協議会、京都新聞

※新型コロナウイルスの感染防止のため、次年度に開催延期

(1) ③成果の公開と出版活動

市民公開講座、未来研究会の成果をより多くの人々に周知する為に令和元年度は4回、機関誌「ひと・健康・未来」を発刊し、講演内容ほかを掲載している。

更に、ホームページ上で開催告知や機関誌のアーカイブをPDFファイルにして公開している。

機関誌の掲載内容は以下の通り。

◆「ひと・健康・未来」21号(2019年6月発刊)

- ・ひと・健康・未来シンポジウム2018神戸
「ライフステージにおける健康情報の管理」
- ・スペシャルインタビュー
「自然に対する畏敬の念を忘れてはならない」
- ・第35回 未来研究会
ディープラーニングによるロボットの認知と行動の予測学習モデル
- ・研究助成採用者メッセージ
・ゴリラレポート「敗者を作らない社会」

◆「ひと・健康・未来」22号(2019年9月発刊)

- ・ひと・健康・未来シンポジウム2019京都
「共により良く生きる知恵 マインドフルネス」
- ・第36回 未来研究会

「ビジュアルコミュニケーションデザインの可能性」

・第 37 回 未来研究会

「在来作物は私たちの暮らしになぜ大切なのか」

・研究助成採用者メッセージ

・2019年度研究助成採用結果

・ゴリラレポート「離乳期と思春期」

◆「ひと・健康・未来」23号(2019年12月発刊)

・ひと・健康・未来シンポジウム2019京都

「医療・介護・福祉におけるアートとデザイン」

・スペシャルインタビュー

「常識にとらわれず好奇心と問う力、そして面白がることができること」

・第 38 回 未来研究会

「ラーニングヘルスシステムのモデル構築」

・第 39 回 未来研究会

「ヤングケアラーへの支援とケアを受ける親への配慮」

・ゴリラレポート「ゴリラの社会と人間家族の起源」

◆「ひと・健康・未来」24号(2020年3月発刊)

・ひと・健康・未来シンポジウム2019名古屋

「『食』を考えるー今の食卓に大切な栄養学ー」

・スペシャルインタビュー

「医師は自分自身のためではなく、世のため、人のためにある」

・第 40 回 未来研究会

「食と農を結ぶー新しい農学の創設ー」

・助成研究発表会・特別講演

「老化とは何か;免疫系の二つの顔」

・新コラム:食と農の旅「飢餓とは、何か」

(2)「ひと・健康・未来シンポジウム」の調査研究事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究と普及及び啓発事業。

こころ、健康、自然環境の情報の調査研究を行い、普及と啓発を行っている。

(2)－①情報の収集と公開講座の計画

財団役員の科学者を含むプロジェクトにおいて学術情報を収集すると共に他機関の研究者に呼びかけ、知識の普及と啓発を行うためにシンポジウムを計画した。

(2)－②市民公開講座の開催

年1回は、財団の拠点である京都で市民公開講座「ひと・健康・未来シンポジウム」を開催し、知識の普及と啓発を図っている。参加は自由であり、参加費は無料。令和元年度の開催状況は以下の通り。

●『ひと・健康・未来シンポジウム2019京都』

開催日:2019年7月28日(日)

会場:メルパルク京都

テーマ:「医療・介護・福祉におけるアートとデザイン」

後援:京都府、京都市、京都市教育委員会、京都市社会福祉協議会、京都新聞

参加:103名

医療、介護、福祉分野でアートやデザインを積極的に取り入れる動きが増えています。各領域での導入例をみながら、それらを取り入れる意義について学んでいただきました。

(2)－③成果の公開と出版

市民公開講座の成果をより多くの人々に周知する為にテーマがまとまった段階で発表者の論文等を集め印刷物として出版している。当該市民公開講座は、前述の2019年12月発刊の機関誌「ひと・健康・未来」23号において、講演内容を掲載しています。又、ホームページ上で講座の開催告知や機関誌のアーカイブをPDFファイルにして公開している。

(3)海外諸団体との連絡協力のための調査研究事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究にかかわる海外諸団体との連絡及び協力の為の事業。こころ、健康、自然環境の調査研究に関する海外諸団体との連絡及び協力を進めている。

(3)－①海外諸団体との連絡協力

財団役員の科学者を含むプロジェクトにおいて海外研究者、諸団体との連絡と協力を進め、研究者に呼びかけて連絡と協力をを行い、普及と啓発を行うために国際的な研究者によるフォーラムを計画、開催する。令和元年度は役員から、上記事業に関して、実施できる事業提案がなく、おこなっていない。今後、テーマのあり方について継続して協議を続ける。

(3)－②公開講座の開催

調査研究テーマに関して、数年に1回「国際フォーラム」を開催し、知識の普及と啓発を図る。上記理由にて、令和元年度は実施していない。

(4)共同研究と委託研究

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための基礎研究や臨床研究、さらに調査研究などを共同研究や委託研究により進める事業。健全な食生活と予防医学に重点をおいた研究、さらに自然との共生を基本に、こころの健康を目指した研究などを進める研究者と共同研究と委託研究を進める。

(4)－①共同研究と委託事業の推進

財団役員の専門家が上記に関連するテーマについて検討し、本財団の目的に適合する基礎研究や臨床研究を進めている研究者を検討し共同研究又は委託研究を行う。令和元

年度は役員から、上記事業に関して、実施できる事業提案がなく、おこなっていない。今後、テーマのあり方について継続して協議を続ける。

(4)－②研究成果の公開

上記理由にて、令和元年度は実施していない。

(5)がんの温熱療法の調査と普及促進

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究のひとつとして、がんの温熱療法の普及促進のための調査と広報事業である。令和元年度は役員から、上記事業に関して、実施できる事業提案がなく、おこなっていない。今後、テーマのあり方について継続して協議を続ける。

(5)－①情報収集活動

上記理由にて、令和元年度は実施していない。

(5)－②広報活動

上記理由で、令和元年度は実施していない。

2. ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する助成事業 (公2)

(1)「食品」、「環境」、「医学」、「福祉」をテーマとする公募による研究助成

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する助成事業。

(1)－①研究助成の申請および選考

上記に関するテーマにおいて、重要な研究であるが科研費等の公的予算がなかなかおこなえないような研究をサポートしたいと考えている。公募の申請書を元に財団選考委員会が選考する。令和元年度は公募(2019年4月1日～4月30日)、選考委員会(2019年6月21日)を実施した。

令和元年度の応募総数は435件であった。採用件数16件(食品2件、環境3件、医学8件、福祉3件)、助成金総額は1,490万円。採用結果は以下の通り。

<食 品>採用件数:2件

「筋委縮・サルコペニア予防のための時間栄養学的研究」

小田 裕昭／名古屋大学大学院生命農学研究科

「リンゴ PFAS 患者が無症状で食べられる、日本産リンゴ品種の経口負荷試験による探索」

沖嶋 直子／松本大学人間健康学部

<環 境>採用件数:3件

「日本近海に生息するイカ類に含まれる有害物質の器官別定量と
イオウ同位体比による由来分析」
高橋(田中)美穂／東京海洋大学学術研究院海洋環境科学部門

「地域固有の緑と健康とのかかわり-台湾の樹木信仰の場「大樹公」を事例に-」
上田 萌子／大阪府立大学大学院生命環境科学研究科

「受動喫煙防止に向けた大学内における浮遊粒子測定と禁煙支援活動の実践」
森本 泰子／神戸学院大学薬学部

<医 学>採用件数:8件

「オメガ3脂肪酸由来メディエーター・PGE₃による動脈硬化・予防効果の検討」
石渡 遼／防衛医科大学校医学部

「放射線診断によって国民が受ける放射線量の推定と線量の最適化に関する研究」
須藤 高行／群馬大学医学部附属病院

「腸-腎連関に基づいた慢性腎臓病の新たな治療法および進展予防法の開発」
三島 英換／東北大学病院腎高血圧内分泌科

「パセリ由来代謝産物を認識するT細胞の機能制御によるガン免疫療法の開発」
柴田 健輔／山口大学大学院医学系研究科

「高齢者の脳の健康維持・認知症予防を目指した嗅覚刺激法の開発」
内田 さえ／東京都健康長寿医療センター研究所

「認知症発症予防を目指す、天然物由来で、
副作用の少ないアミロイドβ産生阻害剤の開発」
福森 亮雄／国立長寿医療研究センター分子基盤研究部

「極端な食事制限がもたらす男性性機能障害の発症メカニズムの分子薬理的解明」
片岡 智哉／名古屋市立大学大学院医学研究科

「高脂質食を心疾患予防食として活用するための基盤研究
-脂肪酸代謝マスター転写因子 PPAR α に注目して-」
東口 治弘／東京大学医学部附属病院

<福 祉>採用件数:3件

「精神保健福祉領域のピアサポートによる福祉的予防に関する探索的研究」

相川 章子／聖学院大学心理福祉学部

「地域ぐるみの死別体験者支援のあり方に関する研究

－世田谷区グリーンサポート事業の質的評価を中心に－」

山崎 浩司／信州大学医学部

「少年院在院者・退院者の声から探る発達上の課題を有する非行少年の

発達支援システムの研究」

内藤 千尋／松本大学教育学部

(1)－②研究助成テーマの研究成果発表会の開催

研究助成を受けた研究者が研究成果の発表を行う。発表会には近隣の食品系、環境系、医学系、福祉系の大学を含めた各大学に招待状を送付し、参加費は無料である。

令和元年度は2019年11月16日(土)メルパルク京都で開催。19名から研究成果についての発表があった。発表はポスター方式でおこない、参加者全員の投票により優秀発表者を表彰した。更に、助成研究の意義を周知する目的で一般市民を公募により招待し、特別講演会を開催。講演は当財団の湊評議員。183名の参加があった。当該講演は、前述の2020年3月発刊の機関誌「ひと・健康・未来」24号において、講演内容を掲載している。又、ホームページ上で講座の開催告知や機関誌のアーカイブをPDFファイルにして公開している。

以上